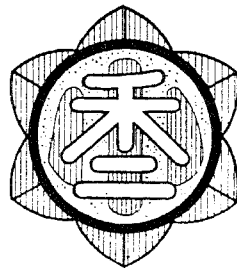


学校紹介

シリーズ ⑩

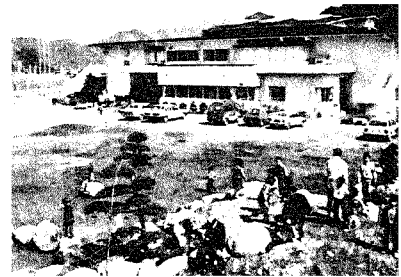


禾生第二小学校は、都留市小形山七五三番地（海拔三九七m）に所在しています。

この学校は、市の最も東に寄った位置にあり、昭和五十六年四月に新校舎完成によって大輪の現在地に移転開校いたしました。

総面積一九、〇〇〇平方メートル余の広々とした敷地に方形の校舎がたち、北に中央高速道を隔てて、連なる山々を望み、東崖下には悠然と流れる桂川を見下ろす人材育成の場にふさわしい景勝の地にあります。

児童数は現在二二四人で六学級の編成ですが、四月からは創立以来初めてという一年生の二学級編成が実現し、児童は年々増加の傾向にあります。



△「子供の自由に遊べる庭園」

緑豊かな美しい

学校環境を

今、校地内を歩いてみるとあちこちにサクラ、ヤナギ、イチヨウ、ネムなど約四〇種八〇〇本の樹木が若芽を競い旧校地から移植した校木の二本のアスナロの他は、すべて幹の細い若木ばかりであることに気づきます。

学校建設当時、ここには一本の木、一輪の花すら目にすることはできませんでした。低地を埋め立てて造成した処です。見はらす限りの茫茫たる草原であったのです。「緑の豊かな美しい学校環境を」のかけ声で立上ったPTAが、二年余に亘り、全力を投入して環境づくりにとり

広い体験を通して

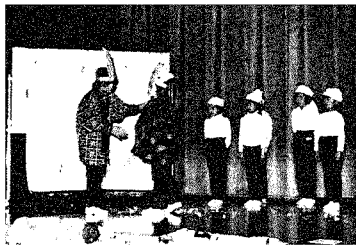
豊かな人間形成を

禾生第二小学校長 佐野 善一

本校では、子供たち出来るだけさまざまな体験をさせるの中から深く学びとってもらいたいと願って、行事等の計画も組んでいます。

体を使って実際にやってみることに、やり方や仕組みも判り、その苦労や喜びを肌で知ることが出来ます。本当に判るといえるのは、こうい

くんだ結果がこの八〇〇本の若木たちなのです。この三月に完成した「子供の自由に遊べる庭園」と共に、開校時の環境整備への努力は永く歴史に刻まれると思います。この若い木々の成長がこれからの長い楽しみになるでしょう。



▲「六年生を送る会」三年生のオペレッタ



▲先生も給食を一緒に

うことだと思えます。

一学級一七〇平方メートルの農園での農生産活動、収穫後の田にしとり、雪と格闘するスキー教室、たてわり集団のスケート教室、波に負けない体力をつくる臨海学校、苦しみに耐えぬく持久走、もう一人の自分を準体験する学芸発表会等、体験学習が子供に生きる力をつけ、より強くより深く豊かに人間を育てるものであることを信じ実践しています。

○ホールでの全校給食を人間形成に生かす

本校には、方形校舎の中央にホールがあり、全校児童が一斉にここで給食をとりま

食事の準備は、四年生から六年生までの一チーム二十六人の当番が十五分間で行います。限られた時間の中で二〇〇余人分の食器や食事を運搬して盛りつけ配膳します。

手早く白衣に着替え、食卓を拭き、仕事を分担して細心の注意を払って、献立に応じた食事準備にかかります。

これ程に集中力と連携プレイと判断力と早さが要求される結果が即座に出る奉仕作業は他にないと思えます。

「いただきます」で始まる全校一斉の食事を、楽しく落着いた雰囲気の中で行うには一テーブルごと六人の協力が基になります。そしてそれが全体のものとなるのです。

食事のマナーも、食後の食器の整理も、残食の始末も六人が協力しあい、注意しあって確実にできてこそ全校の給食がうまくいくのです。

大きな集団の中で小さな集団が磨かれ、小さな集団の成果と失敗が大きな集団に影響を及ぼしていくところに意味があると思っています。

全校給食が他の課程と連動して、子供の人間形成に大きな役割を果たしているものと考えて、全校態勢で指導にとり組んでいます。